

(「一寸先は光です」)

校長だより

平成29年12月1日(金)

第21号

「我が子を入れたくなる学校をつくりたい」(初代校長)

那覇西高等学校長 長濱 雅仁

「いつも太陽の光に顔を向けていれば、影を見ることはありません」—ヘレンケラー—

◆期末考査11月28日～12月1日 ヘッドワークの「**最大出力**」求められています。いよいよ最終日、全力投球ですよ、皆さん。「頑張った人に来るのが、刈-刈-刈!後悔した人に来るのは・・・刈- 刈-刈! (試練の冬休み・三学期)」カソヤ、ダバサガ。

校長武辺話：平成4年、校長は生徒指導部の遅刻係でした。それまでの那覇西の遅刻者は年間3,200名前後で推移していました。当時は全員必修の早朝講座があり(7校時もありました)、遅刻生は職員室で入室許可証を受け取りました。遅刻係1年目、遅刻生は7割近く減少し、約1,100名でした。遅刻係2年目、遅刻する生徒の多くが毎日ぎりぎり登校ということに気づきました。そこで遅刻0週間(初体験)の期間は、「5分前STOP週間」としてIDカードを発行し、放課後に呼び出し、「5分前行動」の意義等について指導部で説諭しました。その結果、その年度の遅刻者は545名、当時、沖縄一遅刻者が少ないといわれていた与勝高校の673名を抜いたのです。その年(平成5年)国公立合格者数は那覇高との差はわずか5名でした。そのように生徒指導(勤怠)と進路指導は車の両輪なのです。

■校内外の小さな変化・成果がありました！気がついたでしょうか？

- 早朝講座の時間帯(7:40～)に進路学習室、図書館、3年の各教室で黙々と自主学習に励む3年生の姿があります。去年に比べると倍増していると思います。(一番多い日は60名以上の生徒が勉強に励んでいます。そのような中、PTAの皆さんが立ち上がりました。25日(月)に「勝つ力-激励会」が予定されているのです。「努力は必ず報われる」を彷彿させる出来事ですね！

武辺話「小禄中37期生同期会」 編

11月25日(土)那覇市内で小禄中学校第37期生同期会のとうしびー(48歳)祝いに招待され、参加しました。100名を超える元生徒達と3名の教師が集った会は盛況そのものでした。招待された担任の先生方の中には体調が思わしくなかったり、身内に不幸があったりなどの理由で、残念ながら参加できない先生方もおられました。参加された女性の先生は安易に妥協を許さない先生方でした。

48歳と立派に成長した彼らは、自信と誇りに満ちあふれ、眩しく感じられました。(これこそまさに教師冥利)一番うれしかったのは何と云ってもウ-マ-達?との35年ぶりの再会でした。彼らは、引き切り無しに私達のテーブルに歩み寄り、「先生達変わらないね!♪♪(ファカルCM風)」「元気そうですね」と親しげに話す姿に感慨無量になりました。当時の彼らはパチ・リチブル(丸刈りの両サイドに鋭く切り込みを入れる)、学校ク-マ-、ノ-靴登校生、モ-ヤ-ス-ヤ-等ウ-マ-行為の常連、数え上げたらきりがありません。「先生!学校は昔のように厳しいほうがいいアンニ(小禄に-の一つ)」と、啞然とすることばを連発するウ-マ-達。話しかけてきたキ-ビ-、テッ-、マ-チャ、マ-カ、セバ-、パチ、ミツバ、バギ-らの謙虚で澄んだ瞳にただただ感激!

先日、あるテレビ番組で「全国の紅葉特集」を見ているとある老人が「昨日の紅葉が一番美しい」と話されていましたが、記憶の中に刻まれた光景や思い出は過ぎ去る時間の中で昇華されていくのかな?と思いました。35年ぶりの教え子達との同期会はまさに「昨日の紅葉」のごとく、私の記憶を美しく彩るとともに、情熱発電機に見事に点火してくれたようです。よっしゃー!